

# 皆さんの「声」を聞かせてください！

## なかやま保育園の保護者の話

今回は、なかやま保育園の保護者の方々にお話を伺いました。中山町の良いところとして語られる「自然が豊か」「住民が親切」「平和でのんびりしている」という、時代が変わっても受け継がれている「中山町の当たり前」もあれば、これからの子どもたちのことを考えた時に「改善してほしい」と思う「当たり前」もあるようです。



### 子育て世代にとって「使える施設」はどこ？

#### ほんわ館

騒いでも怒られない

秘密基地のようなスペースがあって楽しそう

他の図書館とは違って、柔らかい雰囲気

#### 中央公民館

ロビーの椅子は小さい子どもは座れない

子どもを抱っこしたままになるので、休憩にならない

選挙の時しか行かない

#### ペンギン公園

小さい子は遊びにくい

#### 歴史民俗資料館

行ったことがない

ほんわ館以外に行く場所がない... → 結局、「町の外」に出してしまう

遊び場も買い物も町外のほうが充実している

車さえあれば、どこにでも近いです。便利ではありますが。子どもを遊ばせる場所も、買い物をする場所も町外で、中山町にお金を落とす機会は限られています。他の人たちもそうです。こうした状況がずっと変わっていないような気がしています。こういうことが「当たり前」として続くのって、どうなんだろう、と思います。



### 他の自治体が当たり前のように取り組んでいること、中山町ではイマイチなのはなぜ？

#### こども食堂

中山町での取り組みがみられない。ニーズがないのか、それとも支援体制が脆弱で取り組みにくいのか...

#### 魅力のアピール

全然できていないと感じてしまう。CM 大賞も頑張してほしい！

「大字長崎」という街区が大きすぎ

友人に中山町への移住を進められない理由がこれ。分りにくさがストレス。

#### 雇用対策

雇用も町の外に頼っている。子どもの将来を考えると心配。

#### 多文化共生

外国人居住者も増えてきた。異文化への理解を深める機会がほしい。

### 自分たちがよその町を頼るだけでなく、よその人も中山町を頼るようになってほしい！

#### 役場高層化計画！

上層階は居住スペースにして高齢者が暮らせるようになれば、雪かきで苦勞しなくて済む！

子育てサービスも充実してほしい！

ランドマークになれば、道路から見た時に気になるはず！

去年の芋煮会イベントは、とても盛り上がっていました。芋煮の振る舞いはもちろん、子どもたちの太鼓のお披露目があって、それをいろんな世代の人が見守ってくれました。町外からも人がたくさん来ていて、こういうイベントができることを誇らしく思いました。



出来事を共有できる場も必要

## 1 子育て世代は、利用できる公共施設が限定的

よく使う施設について伺ったところ、「子どもが騒いでも注意されない」「秘密基地のような空間があって楽しい」「他の図書館とは雰囲気違って良い」等、ほんわ館の名前が挙がりました。しかしながら、ほんわ館以外の施設はほとんど挙がりませんでした。中央公民館は「ロビーの椅子は小さな子どもは座れない。結局、抱っこ

したままになるので休めない」「用事がないと行かない」、隣のペンギン公園は「遊具はあるが、小さい子は遊びにくい」とのことで、前号の「子育て支援センター利用者」へのインタビューと同様に、未就学児を抱えた世帯向けの施設が少ないことが改めて明らかになりました。

## 2 町の外に頼るのが当たり前になっている

「ほんわ館以外に、子どもを連れて行ける場所がない」とのことで、遊び場も買い物も「結局、町の外に出してしまう」という話があり、これも他のグループと同じでした。「中山町の人、町の中にお金を落とさないで、外で落とす。町の外に頼るのが当たり前になっていて、ずっと変わっていない」という意見も出ました。

「当たり前がずっと変わらない」という話から、「他の自治体が時代のニーズに合わせて当たり前

のように取り組んでいることに、中山町はいまいち取り組めていないのは何故？」という話題にも発展しました。たとえば、最近だと外国人居住者も町内で見かけるようになり、お互いの文化やマナーを理解し合う多文化共生の視点が中山町には少ないのではないか、という指摘がありました。生活者目線では、変える必要のある「中山町の当たり前」がたくさんあるようでした。

## 3 いろんな世代が集える場所を

「自分たちがよその町を頼るだけでなく、よその人も中山町を頼るようになってほしい！」とのことで、間もなく築 60 年を迎える中山町役場を建て替えるならば、高層化することで「多世代が求めるさまざまな機能の集約」「ランドマーク化」が果たせるのではないかと、という意見がでました。中山町を通り過ぎるのではなく、「訪れる町」にするためにも、今回の公共施設再配置における

施設機能の検討は重要になりそうです。

また、「去年（2024 年）の芋煮会イベントは盛り上がった」という話から、「町内の人たちで出来事を共有できるのは良いこと」という意見も出されました。そうした場面が現状では少ないことから、多世代が集まれる施設ができることで、町民同士の交流が盛んになることへの期待も語られました。

公共施設再配置計画については、その必要性が「第 6 次中山町総合発展計画」にて説明されています。以下 URL または、右記コードよりご確認ください。

©中山町「第 6 次中山町総合発展計画を策定しました」

<https://www.town.nakayama.yamagata.jp/soshiki/seisaku/machidukurisuishin/214.html>



【主催】中山町総務広報課防災安全対策室（中山町大字長崎 120 番地／電話：023-662-4899）

【制作】東北芸術工科大学デザイン工学部企画構想学科 田澤ゼミ

〈2025 年 3 月発行〉